

# 経営比較分析表（平成29年度決算）

兵庫県 佐用町

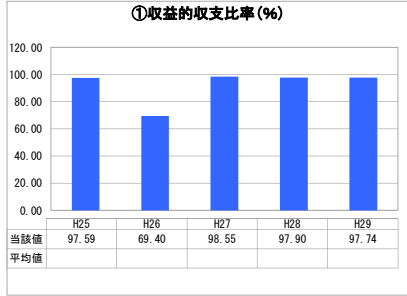
業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法非適用	下水道事業	特定環境保全公共下水道	D2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家産料金(円)
-	該当数値なし	51.76	100.00	4,013

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
17,354	307.44	56.45
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
8,889	4.80	1,851.88

**グラフ凡例**

- 当該団体値（当該値）
- 類似団体平均値（平均値）
- 【】 平成29年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



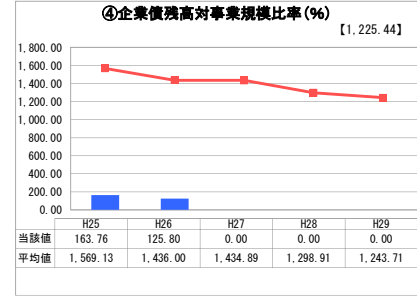
「単年度の収支」



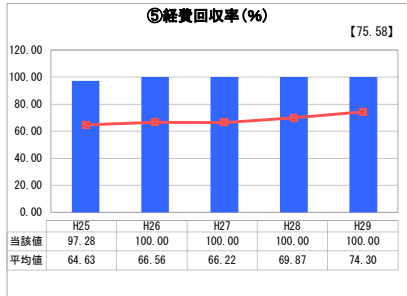
「累積欠損」



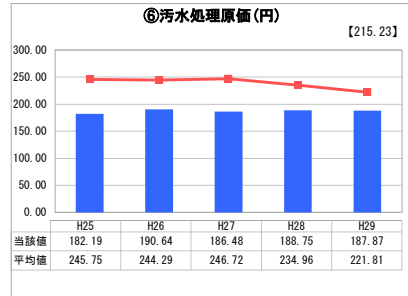
「支払能力」



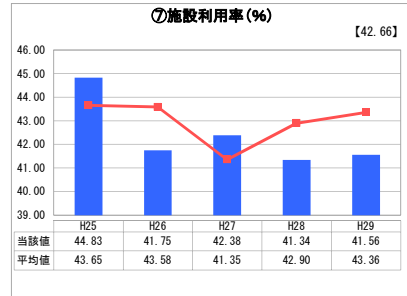
「債務残高」



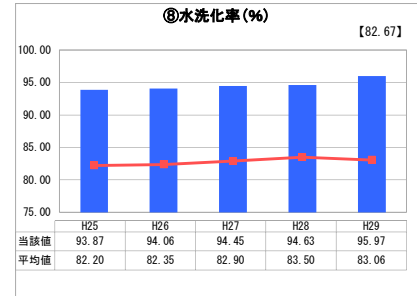
「料金水準の適切性」



「費用の効率性」



「施設の効率性」

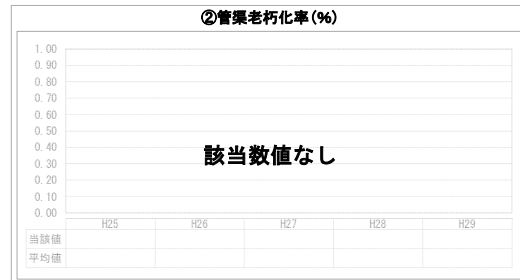


「使用料対象の捕捉」

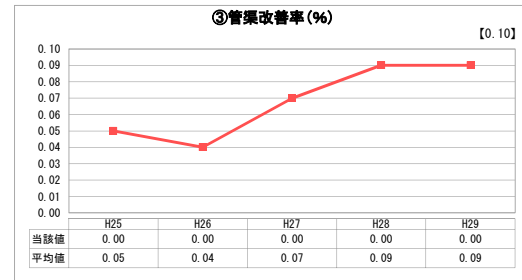
## 2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「管渠の経年化の状況」



「管渠の更新投資・老朽化対策の実施状況」

## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

①収益的収支比率は前年度より若干低下した。維持管理経費の一層の削減等改善の必要がある。④企業債残高対事業規模比率は計上されていないが、起債償還を一般会計からの繰入に依存しているのが現状である。⑤経費回収率は変動がない。⑥汚水処理原価は減少傾向であるが、今後も人口減少により有収水量が低下し、汚水処理コストの増加となる可能性がある。⑦施設利用率は、類似団体並みではあるが、人口減少により稼働率が低めに推移している。事業統合等により効率的な施設管理を図る。⑧水洗化率は増加傾向であり、今後も引き続き水洗化推進を図る。

### 2. 老朽化の状況について

③管渠改善率は、平成21年台風災害からの復旧事業を優先してきたこともあり、更新投資は0となっており老朽化対策は進んでいない。今後は施設統合及び長寿命化計画等に基づき必要な管渠の更新を図る。

### 全体総括

H17年10月に旧4町が合併し新佐用町が誕生した。地理的な問題もあり、現在でも5箇所の処理場が稼働している。町内でも山間地や人家の少ない地域は農集、個排で対応しているが、これらすべてを特環下水に統合することは困難だが、更新時期や稼働率の低下した隣接の農集、コミプラ施設との統合を推進する。また施設更新に合わせ管理統制システム及び監視体制の効率化を図り、更なる維持管理コストの低減を図る。  
全町的に管きよの老朽化が進んでおり計画的な更新が急務となっている。経営戦略に基づき、より有利な起債等財源を確保した上で長寿命化と経営改善を推進する必要がある。

※ 法適用企業と類似団体区分が同じため、収益的収支比率の類似団体平均等を表示していません。

※ 平成25年度における各指標の類似団体平均値は、当時の事業数を基に算出していますが、企業債残高対事業規模比率及び管渠改善率については、平成26年度の事業数を基に類似団体平均値を算出しています。